

## 比婆山山スキー～新雪はいと楽し～

【報告者】長尾恵、武内康雄

【日時】2008年1月19日(土)～20日(日) 【天候】晴れ、雪

【参加者】一木、今村、長尾恵、武内

### コースタイム

18日(金)福岡 2200～七ツヶ原 P A 200

19日(土)比婆山県民の森スキー場駐車場 1015～リフト上部 1110～比婆山 1200～烏帽子山 1300～出雲峠 1415～毛無山途中 1530～出雲峠手前～駐車場 1600

20日(日)駐車場 815～リフト上部 915～比婆山 945～池の段 1030～ドルフィンスキー場(閉鎖)上部～リフト乗り場(中間部)1200～スキー場上部 1330～池の段 1400～比婆山 1500～南側林道 1600～駐車場 1640ー福岡

### 報告

19日【報告者：長尾恵】

今シーズン初のスキー部の活動という事で、武内部長ひきいるスキー部先輩メンバーはウキウキのご様子、一方新入部員の私は不安と期待でいっぱいいな中、福岡を18日21時半過ぎに出発し、七塚原 SA でテント泊。

19日県民の森スキー場に到着、山スキーセットを準備し、リフトに乗りブナ林まで登る。11:00 これより本格的な山スキーの開始です。比婆山山頂までは登り道、スキー板にシールを装着・・・前日、家で初めてスキーシールを貼ってみて、『こんなので本当に雪山に登れるのか』と、かなり疑問の私でしたが、実際に登ってみるとミラクルが起こったといった感じで、スイスイ登れるではありませんか。トレースの付いてない深雪の上を先頭の一木さんに続き調子いい感じで登っていたものの、やはり若葉マークの私は登りのターンで大転倒。雪の上で転ぶのは痛くはないが、スキー板を履いたまま起き上がるのはかなり大変で、板と足がもつれ、上下さかさまでもがき苦しむ。

11:56 比婆山山頂へ到着。まだシールは装着したまま烏帽子山山頂へ向かう。

ビンディングの角度を変えながら、急勾配や平坦な道なき雪道を進む。

烏帽子山山頂で一休みし、ここからはシールをはがし一気にすべり降りる???ことになるはずが、温暖化は比婆山にも悪影響をもたらしているらしく、『雪少ない』と冷静に今村さん、『前回来た時は雪で低木が隠れていて、いろんな所を滑れたのに・・・これが本来の山スキーと思っはだめよ!!』と一木さん、『藪が見えてるけど、何とか滑れるでしょう』と武内部長。『ブ、ブ、ブ、ブチョーッ、大丈夫ですか初心者でも?』

と内心思う私でした。長身なのにすばやい動きで滑る部長、キレのあるターンをキメまくる今村さん、安定した滑りで樹林帯をスイスイの一木さん、その後を追う。

藪を抜け、小川を渡り、小枝にぶつかりながらも（私だけ・・・）爽快な感じで、毛無山との分岐点まで滑り降りた。滑り足りなかったのか武内部長『せっかくだから新ルートの開拓をしに、毛無山まで行ってみよう』ということになり、14:30 またシールを貼り雪と藪のミックスを登るが、あまりに歩きづらいので登山道に出たところで、15:30 途中下山。今度はシールをはがし登山道を滑り降り、16:00 県民のもりスキー場へ到着。

この日私は数回転倒を経験し、転倒は体力をかなり消費してしまう事に本当に気づかされました。

## 20日【報告者：武内】

今日は雪模様。再び県民の森スキー場のリフトを2本乗り継ぎ、上部でシールを装着して登りだす。そういえば昨日はここで転がったんだよなとしみじみ思った所で、長尾さんが再び転がっていた。寸分変わらず昨日と同じ場所であるで漫画のようであった。今日は閉鎖されたドルフィンスキー場で新雪を楽しもうという算段だ。

池の段に出て風雪が強いが行動は可能。ここから無木立の軽い雪の斜面を快適に滑る。ただドルフィンスキー場上部に滑り込む所が、藪が濃く苦勞する。藪を突破すると期待通りドルフィンスキー場はまっさらの新雪が広がっていた。ただ、整地されていない分、タラの木が顔を出し始めており、引っ掛けぬよう、すり抜けるように滑っていく。途中長尾さんは休息で待機し、我々はもう一滑りして登り返して見ると雪だるまと迎えてくれました。

池の段経由で戻り、比婆山の稜線からスキー場に向かって滑り出すも、途中から欲が出て、南東の斜面を滑り出すが、これが大はまり。じきに植林帯となり木がまだ小さく間隔もせまく灌木も出ている。積雪も減って藪も出てきた。「はまった」と奇声を上げながら、それでも登山道(林道)目指して滑りおり、暗くなる前に何とか突破し、林道に出て無事下山となりました。

それから吹雪が続き、山陽道通行止め、中国道を雪のわだちにビビりながら戻ってきました。

まあ今シーズン初で、新しいメンバーと、新しいルートねらいで計画しましたが、まずまず滑れ、けっこう楽しめたかな。